

事例 3

事業承継に向けた IT システムの構築

聖徳ゼロテック(株) 古賀 忠輔*

未来の社長に向けての IT 化

当社は従業員数 30 名ほどの小さな会社で、日本の 9 割を占めるよくある中小企業の一つである。プレス金型の設計～製造～量産と社内で一貫通貫して対応ができ、最近ではロボット・FA など電気分野にも対応し、金型技術と自動化をセットで提案している。

本稿では、事業承継に向けて経営環境や生産コスト、生産状況の見える化を図るため、IT 構築に取り組んだ事例を紹介する。

2 代目としてのプレッシャー

筆者は会社を継ぐ気がなかった。小さいときから自宅の裏に工場があり、絵に描いたような町工場で育った。周囲からは事あるごとに「お前は跡継ぎ」と言われうんざりしていた。10 代の頃「親父が勝手に始めた会社をなぜオレが継がないとダメなのか？」と反発して 18 歳で地元を離れ、大学卒業後はほかの会社でお世話になった。

結局、2006 年、26 歳のときに当社へ入社した。身を固める決心をしたことと、久々に会った父が小さく見えたことが理由である（今振り返れば、後継者問題で悩んでいたと思う）。入社してからは「自分が 2 代目として頑張らないと！」と「無能なお坊ちゃんと思われたくない！」との想いを抱きながらも何もできず、

プレッシャーばかりを感じる日々を過ごした。最初の忘年会では酔って騒ぎを起こし、親に殴られ涙した。情けなくボロボロの毎日であった。

MZ プラットフォームとの出会い

同じ頃（2006 年、冬）、社長が佐賀県工業技術センターで行われたセミナーにて国立研究開発法人産業技術総合研究所（以下、産総研）が開発した MZ（エムズイー）プラットフォーム（以下、MZPF）の説明を受け、その場で「当社で導入する！」と手を上げて挑戦をすることとなった。当時から IT 化の推進が盛んに叫ばれており、当社も市販のパッケージシステムを導入していたが、数百万円のコストをかけて導入したものの、使っていく中で改善や仕様変更の要望が出て、追加コストが発生するため、更新できずにあきらめてそのまま使っていた。社長が一番困っていたのは「製品の収支がよく見えない」ということであった。それを改善できればと思って手を上げたのである。

当時 MZPF は「年間使用料 1,000 円」と「誰でも簡単に構築できる」ことが大きな売りであった。MZPF の特徴はプログラムを書くことなく、コンポーネントと呼ぶソフトウェアの部品を組み合わせることで IT システムを開発できること。IT にかかわる高度な知識を必要とせず、従来の半分以下の期間での構築や、ユーザー自身による機能の追加や修正を可能とする。

MZPF の担当は「ダメで無能なお坊ちゃん」である筆者。相変わらず、社内でも何もできずにさまよっており「最後のチャンス」で指名をされた。MZPF 普

*Tadasuke Koga：取締役副社長
〒840-0036 佐賀県佐賀市西与賀町高太郎 172
TEL (0952) 29-6828